

平成 25 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 東野 治之

最終学歴	大阪市立大学大学院 文学研究科 修士課程 修了	
取得学位	東京大学博士(文学)(論文博第11206号)	
所属学会	史学会 木簡学会 美術史学会 和漢比較文学会 続日本紀研究会 大阪歴史学会 万葉学会 東方学会	
専門分野	日本古代文化史	
研究課題	木簡・金石文等の古代文字史料 東アジア交流史 奈良の寺院史	
授業科目	学部担当科目	・なし ・ ・ ・ ・
	大学院修士課程 担当科目 (博士前期課程含)	・文化財史科学演習 ・ ・
	大学院博士後期課程 担当科目	・史料学特殊研究 ・ ・
	通信教育部担当科目	・史料学概論 ・ ・
【研究上の特記事項】	東京国立博物館の客員研究員として、同館所蔵の法隆寺献納宝物の調査に従事。	
【教育上の特記事項】	実物資料との接触を重視し、逐次現地現場での指導を実施。	
【社会的活動】	日本学士院会員 東京国立博物館客員研究員 奈良県立橿原考古学研究所指導研究員 奈良県文化財保護審議会会長 大阪市文化財保護審議会委員 (財)山口文化会館 滴翠美 術館館長 木簡学会・東方学会評議員	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	サークル「奈良大学文化共生ツーリストサークルNEXT」顧問	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) ①飛鳥と斑鳩一道で結ばれた宮と寺 ② ③ ④ ⑤	共著	平成25年11月	ナカニシヤ出版	奈良大学のシンポジウムにおける酒井龍一・荒木浩司・相原嘉之各氏(いずれも考古学者)の発表に、司会者・コメンテーターとして参加し、発言した内容を公刊したもの。
(学術論文) ①正木直彦が法隆寺に贈った石燈籠 ②法隆寺金堂薬師像の光背銘と天寿国繡帳の銘文 ③史料と史実－天皇の和風諡号を例に－ ④ ⑤	単 単 単	平成25年5月 平成25年12月 平成26年3月	『聖徳』216号 『檀原考古学研究所論集』16 八木書店 『岩波講座日本歴史』2月報5	東京美術学校の校長を長く勤めた正木が、法隆寺に百済の石燈籠を奉納している事実を、その日記の記事によって指摘し、実物が現存していること、百済の石造物として稀有の例であることを論じた。 飛鳥時代の金石文として有名な二つの銘文について、それらが通常言われているような造像銘ではなく、縁起文であることを明らかにし、両史料の内容を利用するに当たっては、その史料的性格に配慮すべきことを論じた。 7世紀以前の天皇の和風諡号は天皇生前の尊号であり、諡号の成立は大宝令以降(8世紀初頭)とする説を、正史の記載や令文、墓誌の検討を通じて批判し、和風諡号の成立は5世紀にさかのぼることを論じた。
(学会発表) ① ② ③ ④ ⑤				
(その他) ①貼りこみ帖の古写経と非破壊分析 ② ③ ④ ⑤	単	平成25年11月	『みささぎ』18号	貼りこみ帖に貼付された奈良平安時代の金銀字古写経断簡について、蛍光X線分析で成分を調査した結果を略報した。